

# 新津山洋学資料館を 活かした 観光とまちづくり

～古い町並みの中に 幕末近代化のモニュメント～



3月19日に正式オープンする新しい津山洋学資料館。東京で行われた市政アドバイザー意見交換会では、市政アドバイザーでもあり、設計を手掛けた富田玲子さんから新しい津山洋学資料館についての説明を受け、16人の市政アドバイザーに新津山洋学資料館を活かした観光、まちづくりについて語っていただきました。

## 皆が満足できる 津山洋学資料館に

富田 新しい津山洋学資料館の設計に当たっては大きな課題が3つありました。

まず、歴史ある城東町並保存地区の中にどうやって新しいものを溶け込ませていったらいいのか。次に「蘭学」とはまた違う「洋学」という、わたしたちが初めて出会ったような領域の内容をどういう風に形に表していったらいいのか。視覚的に印象深くして、わたしたちのような素人や子どもたちにも分かる展示空間を作る必要がありました。そして「この施設は誰のためにあるのか」という問題。大人も子どもも、地元の人も観光客も、それから専門家たちもいろいろの人がそれぞれの立場で満足していただけるものをつくらなければなりませんでした。

この「場所」と「内容」と「人」の課題は大変難題でしたが、悪戦苦闘しているうちに何とかまとまったもののできあがってきました。



象設計集団 建築家 富田 玲子さん

## 岩本 最初、計画を伺った時には「町並みから浮いたようなものになると困るな」と、元住民としては一番心配しました。津山へ帰る度に町の様子が変わっていくことに寂しさを感じていたので、新しい津山洋学資料館は完全に町並みに溶け込んでいて、大変安心しました。ぜひ訪れてみたいと思っています。

私もその小学館の子会社であるネットアドバンス社が、「ジャパンナレッジ」という日本で最初の知的データベイスをネット上で展開しています。その中に「博物館に連れてって」というコーナーがあるのでありますが、そこで開館に合わせた形で紹介させていただきますと思っています。

また、長い間編集に携わってきた『サライ』という雑誌でも5月か6月になると思いますが、紹介させていただきます。良いものをつくっていただいたので紹介のしがいがあります。



株小学館 社長室顧問 岩本 敏さん

## 町並みに溶け込んだ 紹介しがいのある施設



三井物産株コーポレートブランド戦略室次長 岡本 竜馬さん

## 新しいものへの チャレンジも必要

岡本 施設をつくった自治体で、成功裏にどんな発展している所とそうでない所の違いは「誰のために作った施設なのか」という深い洞察とアクションをしているかどうかです。これが今後の「鍵」になるだろうと改めて感じました。

歴史ある津山ですから古き良きものも大切にしなければいけません。一方で「県北の雄・津山」はどこにいったのかとも感じています。環境変化に応じて何かしら新しいものを取り入れ、チャレンジしていく必要があります。つやま夢みのりのブランド品創出活動や津山ホルモングラフなども起爆剤としてすごくい話だと思っています。

また、環境などの面から電車や徒歩が見直されています。駅はその町の顔ですし、駅前の再建は観光戦略と間違いなくリンクする話でもあります。こぢんまりとしたまちづくりと駅周辺には何らかの策を講じる必要があるでしょう。

## 新しいものの中に 古き良きものを継承

イルカ 夫と夫の両親が津山の人なので、ふるさとの話がよく聞かされてきました。

津山だけの話ではありませんが、町並みを含め、古き良き時代のもの、本当に美しいものがほとんど近代化されていくことを残念だと感じていました。この津山洋学資料館は大変すばらしいと思います。新しいものの中に古き良きものをきちんと継承していくバランスは大切ですね。

夫の幼なじみの皆さんが「ぜひ津山でコンサートを」と言ってくれださる、去年コンサートを開きました。コンサートに来た人が津山を散策して、できれば泊まって、コンサート+αを楽しんでもらえるような広がりがある形を考えてもいいかなと思います。わたしはIUCN国際自然保護連合親善大使を務めているので、今年のコンサートもIUCNと何か組んだ形で環境問題にも触れながら開催できたらいいなと考えています。



シンガーソングライター・絵本作家 IUCN国際自然保護連合親善大使 イルカさん

## 子どもたちの 心を育てる津山に

わたしは剣道を通じて津山に縁ができました。津山の子どもたち、岡山の子どもたち、そして日本の子どもたちを立派に育て、物事をしっかり考えることのできる日本人に育成することが必要です。遅まきながら文部科学省が中学校での武道の必修化を決めました。剣道だけが武道ではありませんが、子どもたちを育てていくうえで武道の力が見直されてきたのです。



全日本剣道連盟 常任理事 田原 弘徳さん



TMI総合法律事務所 弁護士 頃安 健司さん

## 「城下町」と「桜」は 津山のアイデンティティー

頃安 わたしは名字が変わっているのですが、初対面の人からは必ずといっていいほど「どちらのご出身ですか？」と聞かれます。「岡山県の津山です」と答えると「津山ってどの辺りですか？」と聞く人は意外と少なく「古い城下町でいい所ですね」とか「桜のきれいな所ですね」とか、結構知っている人が多いですね。津山のアイデンティティーは「古い城下町」と「桜のきれいな所」の2つだなと感じます。

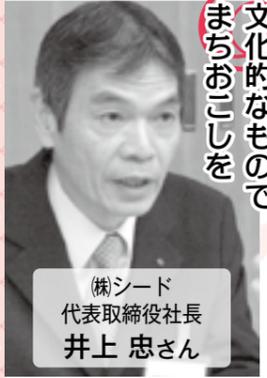
新しい津山洋学資料館をつくるに当たって、わたしも心配していたのですが、城下町津山に非常にマッチしたすばらしい建物だと思っています。津山のイメージを高めるような資料館を設計していただいた富田先生には大変感謝しています。

今後も「城下町」と「桜」というアイデンティティーを大切に、まちづくりを進めていってほしいと思います。

## 文化的なもので まちおこしを

井上 わたしは高校まで津山で育ち、18歳から東京に出ました。親が亡くなってからは足が遠のいていきましたが、年を取ってくるとだんだんとふるさとが恋しくなってくるものですね。父が亡くなって6、7年になりますが、彼のライフワークは郷土史の研究でした。本当に津山が大好きな人で、子どものころから宇田川・箕作の話がよく聞かされていたものです。

東京一極集中、経済もなかなか伸びない中、地方の経済はどんどん悪くなっています。特に津山などは、駅前の辺りとか町中とか、人が少なくなってきていることもあります。が、この状態は何とかがしていかなければいけないと思います。施設を造るだけではなく、文化的なものでまちおこしをし、津山の人が誇れる町、あるいは「津山っていい町だよね」と観光客が今より多く訪れてくれるような町にしてほしいと思います。



株シード 代表取締役社長 井上 忠さん

## 津山の後輩たちへ 夢と世界の広がり

神橋 日本の近代法学のルーツはまさに箕作家にあります。民法制定に際してたくさん資料があるのですが、それを15巻ぐらいにまとめる作業を現在進めています。その第1巻がやっとできました。その資料を出版した会社社長は、前の津山洋学資料館を訪れたこともあり「津山はいい所ですね」と言っていました。

新しい津山洋学資料館には図書館スペースがあるようなので、地元の高中生や大学生にこのような貴重な資料を実際に手に取って見てもらい、自分たちの夢へとつなげていってほしいと思います。民法制定当時の詳細な議事録なども残っており、ただ眺めるだけでもおもしろいものです。

津山洋学と日本史を比較すれば、奥の深いところで日本の歴史や文化と結びついていくことが分かります。こういった世界の広がりを津山の後輩たちに伝えることができたらいいなと思います。



立教大学法学部教授 神橋 一彦さん